



**ooyaishi**

NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝える大谷石研究会の広報誌

# 小学生用社会科副読本 「大谷石の魅力」を刊行しました

NPO法人 大谷石研究会  
理事 和田 昇三

このたび、大谷石研究会では「2016年度宇都宮市市民活動助成金活用事業」の助成金をもとに、小学生用社会科副読本「大谷石の魅力」を刊行しました。

かねてから当研究会では、大谷石の歴史と文化を次世代へ継承するため、小学生向けの「大谷石に関する小冊子」の出版準備を進めてまいりました。宇都宮市への助成金の申請にあたっては、より多くの小学生に読んでほしいとのことから「発行部数は1万部で頁数は、20頁程度」としました。当初は30頁程度を目途に進めてきたため、大幅な見直しが必要となりました。編集会議で何度も議論を重ね、ようやく昨年10月出版するに至りました。

6章の部は写真集「大谷石百選」で執筆して頂いた外部の専門家のもですが、他はすべて大谷石研究会の会員が担当しています。子供たちがいかに分りやすく大谷石の魅力を伝えるか、腐心している様子が行間に垣間見えます。単に小学生の社会科副読本としてではなく、大人にとっても十分読み応えのある内容と思います。

当冊子は、専門的な説明は最小限に留め、あまり難しい話は載せておりません。ここでは、消え去っていたかもしれないヨドコウ迎賓館(第2章)と、現在閉館となっている神奈川県立近代美術館(第5章)について、少し詳しく述べてみたいと思います。

ヨドコウ迎賓館は、フランク・ロイド・ライトと遠藤新の設計で1924年、酒造家の八代目山邑太

左衛門の別邸として芦屋市の丘陵に建てられました。その後、1947

年にヨドコウが社長公邸として購入しました。1970年頃建物を壊して分譲マンションを建てる計画が発表されると建築関係の諸団体から反対の声が上がりました。同社はこれに理解を示し、迎賓館として活用し残すことにしました。未永く保存活用してほしいという建築家らの願いが叶い、1974年鉄筋コンクリート造の建物として最初の重要文化財となりました。現在はヨドコウ迎賓館として一般に開放され、その企業活動が多くの建築家からリスパクトされています。

旧神奈川県立近代美術館は鎌倉市の鶴岡八幡宮境内の平家池のそばに立っています。2016年3月に65年

間の借地契約を終え閉館しました。昭和の日本を代表する建築家・坂倉

順三の作品で、「トモモより1999年」日本の近代建築20選」に選定されました。大谷石が床と壁にふんだんに使われており、当建物を評価するうえで大谷石の存在は計り知れません。閉館と同時に壊す予定でしたが、日本建築家協会、日本建築学会等から建物保存の要望書が提出されたこともあり、閉館のまま現存しています。

坂倉順三は前川國男、吉阪隆正と共にル・コルビュジェが設計した国立西洋美術館の実施設計を担当しました。当建物は、ル・コルビュジェの世界文化遺産作品群の中の代表作品となっており、日本では新たにその文化財的価値を評価することとなり、2007年急ぎよ国の重要文化財に指定されました。

あわよくば、「トモモ」の「日本の近代建築20選」の「日本遺産」申請への機運が高まり、旧神奈川県立近代美術館の文化財的価値が高く評価され、未永く後世に残ることを願ってやみません。



ヨドコウ迎賓館 上・外観 下・正面玄関



旧 神奈川県立近代美術館 上・外観 下・展示室



「大谷石の魅力」表紙